

これからの介護予防と生活支援サービスについて

○これからの介護予防の考え方について

- ・これまでの介護予防の手法は、心身機能を改善することを目的とした機能回復訓練に偏りがちであり、介護予防で得られた活動的な状態をバランスよく維持するための活動や社会参加を促す取組が必ずしも十分ではなかったという課題がある。
- ・このような課題を踏まえて、これからの介護予防は、機能回復訓練などの高齢者本人へのアプローチだけではなく、地域の中に生きがい・役割をもって生活できるような居場所と出番づくりなど高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチも含めたバランスのとれたアプローチが必要であり、具体的には、高齢者の「心身機能」「活動」「参加」のそれぞれの要素にバランスよく働きかけるために、地域においてリハ職等を活用した自立支援に資する取組が求められる。

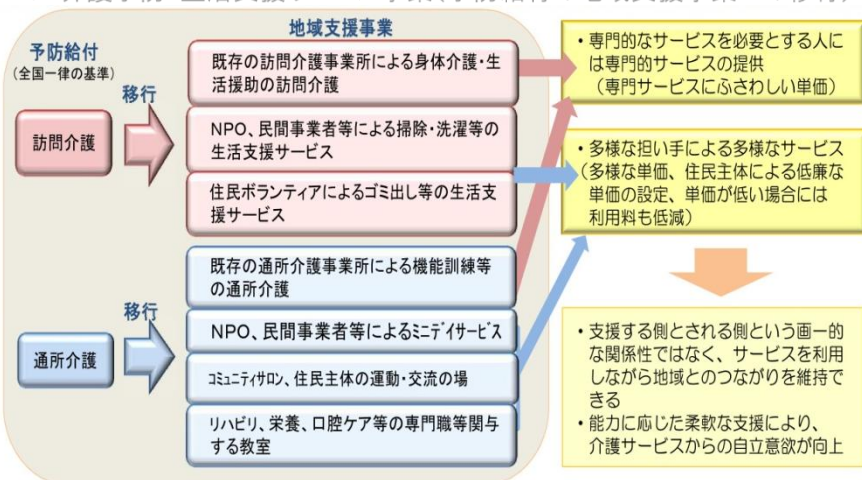
○これからの生活支援サービスの考え方について

- ・単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症の高齢者が増加する中、高齢者が地域で生活を継続するためには、多様な生活支援サービスのニーズがあり、多様なサービスを地域で整備していくことが求められる。
- ・このような現状を踏まえると、各区市町村が中心となって、NPO、民間企業、協同組合、社会福祉法人等の生活支援サービスを担う事業主体の支援体制の充実・強化を図ることが必要であり、具体的には、生活支援サービスを担う事業主体間のネットワークを構築する取組や、地域のニーズと地域資源のマッチングを行う取組などが求められている。

介護保険制度改正への反映

新しい介護予防・日常生活支援総合事業(地域支援事業、H27年度～)

1) 介護予防・生活支援サービス事業(予防給付の地域支援事業への移行)



2) 一般介護予防事業(二次予防事業と一次予防事業の統合)

